

日にち 令和5年11月28日(火)

時間 10:00~

場所 庁議室

令和5年度

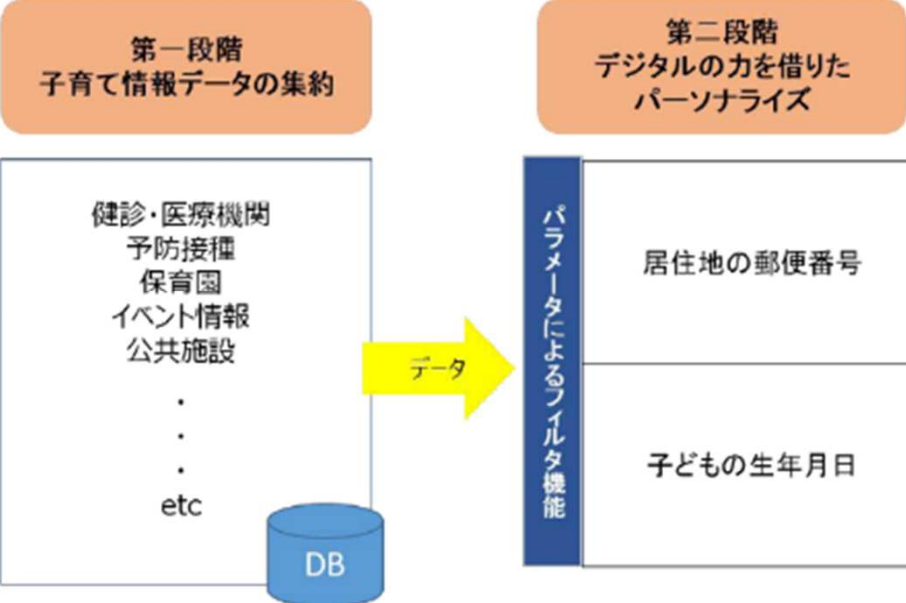
第2回 佐賀市DX推進本部会議

本日のアジェンダ

- (1) 令和5年度DX推進の取り組み
- (2) 基幹情報系システムの標準化
- (3) 今後の予定

デジタルサービス創出検討部会

子育てナビ



簡単♪
わかりやすい♪
タイムリー♪



「佐賀市スマートローカルに向けた
取り組みについて」
一般社団法人コード・フォー・ジャパン
石塚 清香氏、5/18開催

生成AI導入に関する取り組み

生成AIに関する研修

- ・「若手ワーキンググループ向けAI基礎～生成AI活用を考える」
一般社団法人コード・フォー・ジャパン 榎原貴倫氏、9/1開催
- ・チャットGPT勉強会
株式会社AMCC 代表取締役 光野あや氏、8/8開催
- ・「生成AIと最新技術動向」
日本マイクロソフト株式会社 技術統括室千葉慎二氏、10/13開催



本格導入に向けた調査研究

導入の条件

- ・ LGWAN環境内に設置
- ・ 入力情報が外部利用の学習に利用されない
- ・ 出典の明示

今後の課題

- ・ 利用ガイドラインを整備中。来年度本格導入を目指す。



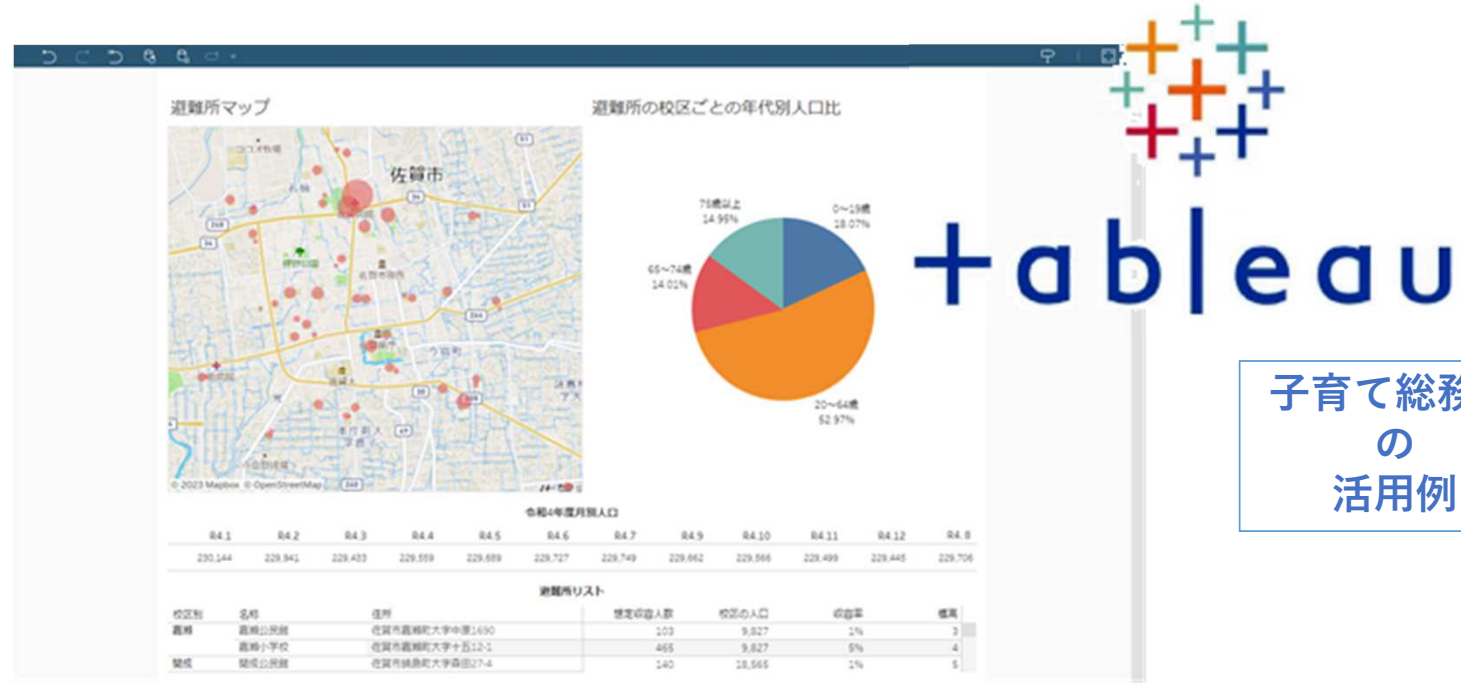
データ連携基盤、BIツールの導入、EBPM人材育成

データ連携基盤

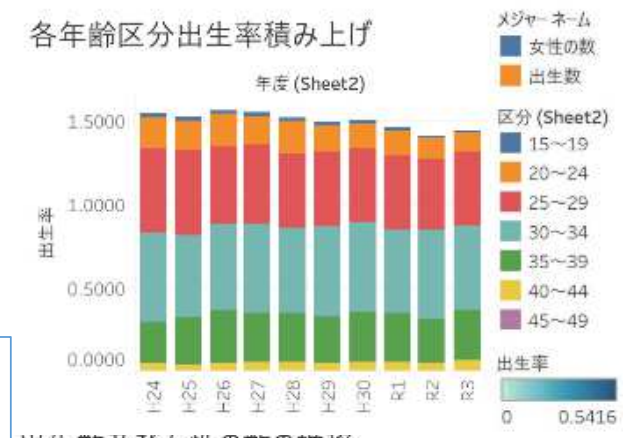
(一社)コード・フォー・ジャパン酒井氏による研修を予定

BI (ビジネスインテリジェンス) ツール

【活用検討中】
危機管理防災課、都市政策課、子育て総務課 等



子育て総務課
の
活用例



EBPM※人材育成 ※エビデンス・ベスト・ポリシー・メイキング (証拠に基づく政策立案)

11/30 プロポーザル審査

自治体フロントヤード改革が目指すもの

自治体行政DX 関係

コンセプト

① マイナンバーカードの活用で
住民との接点の多様化
・充実化（オムニチャネル化）

② 紙ではなくデータ対応

③ 庁舎空間は、
単なる手続きの場所から
多様な主体との協働の場へ

※リアルからオンラインまであらゆるチャネルを相互に連携し、境目なく運用すること

イメージ ～各自治体の実情に応じた創意工夫で、新しいフロントヤード（住民と自治体の接点）を～

A 自宅で



・来庁せずにオンラインで手続き完結
・来庁したい時も自宅で簡単予約

i 自宅で予約

ii スマホからオンライン申請

- ✓ 来た時はチャット（有人・ボット）で相談
- ✓ マイナンバーカードで本人確認

C 庁舎で



B 近場で

リモート窓口を活用し、
行政手続き（オンライン申請）をサポート
本庁職員とリモート相談も



郵便局

公民館

D 自治体と住民との接点の充実化 ← マイナンバーカードの更なる利活用シーンの拡大



（例）遊園地受付における利用
・地域公共交通における利用

3

R5年度

12月8日

提案募集締め切り

R6年1月

外部有識者を交えた選定委員会、
採択団体公表

2月～3月

契約締結・事業開始

R6年度

R6年12月頃

中間報告及び中間報告書提出

R7年3月中旬

最終報告及び最終報告書提出
実績報告書提出



自治体フロントヤード改革モデルプロジェクト(補正予算関係)への取り組みの方向性

“暮らしやすさ” “過ごしやすさ” を実感できる佐賀市 ～より便利、より簡単、より早く～

2040年問題への対応 - 市民のライフスタイルやニーズへの対応 - デジタル社会の実現

<フロントヤード改革> 市民視点に立つオムニチャネル化

- ◇ オンライン申請の拡充 (可能な限りデジタル完結)
- ◇ 来庁予約・管理システム (マイナカード・アプリ等とも連携)
※書かないワンストップ窓口とのスムーズな連携
- ◇ リモート窓口 (支所活用)
- ◇ デジタルポスト (電子私書箱) ※検討中

単なる手続の場所から協働の場へ
(記載台・待合スペース等の削減)

子育て世代も
高齢世代も
誰もが利便性
を実感する改革へ

2040年の佐賀市

持続可能な行政サービスの提供

- ◇ 市民の利便性向上
- ◇ 省人力化とサービス品質の維持の両立

これまでの取り組み

窓口改善への挑戦

- ◇ 各種総合窓口
- ◇ 支所、郵便局、市民サービスセンター
- ◇ 総合案内
- ◇ オンライン申請等

<見えてきた次なる課題>

“なぜ、行政手続には時間がかかるのか？”
⇒ 「来させない」「待たせない」「書かせない」を実現する「フロントヤード改革」が急務！！

徹底的なBPR
(市民ニーズの把握、
動線・業務の見直しなど)

<バックヤード改革> データ対応の徹底

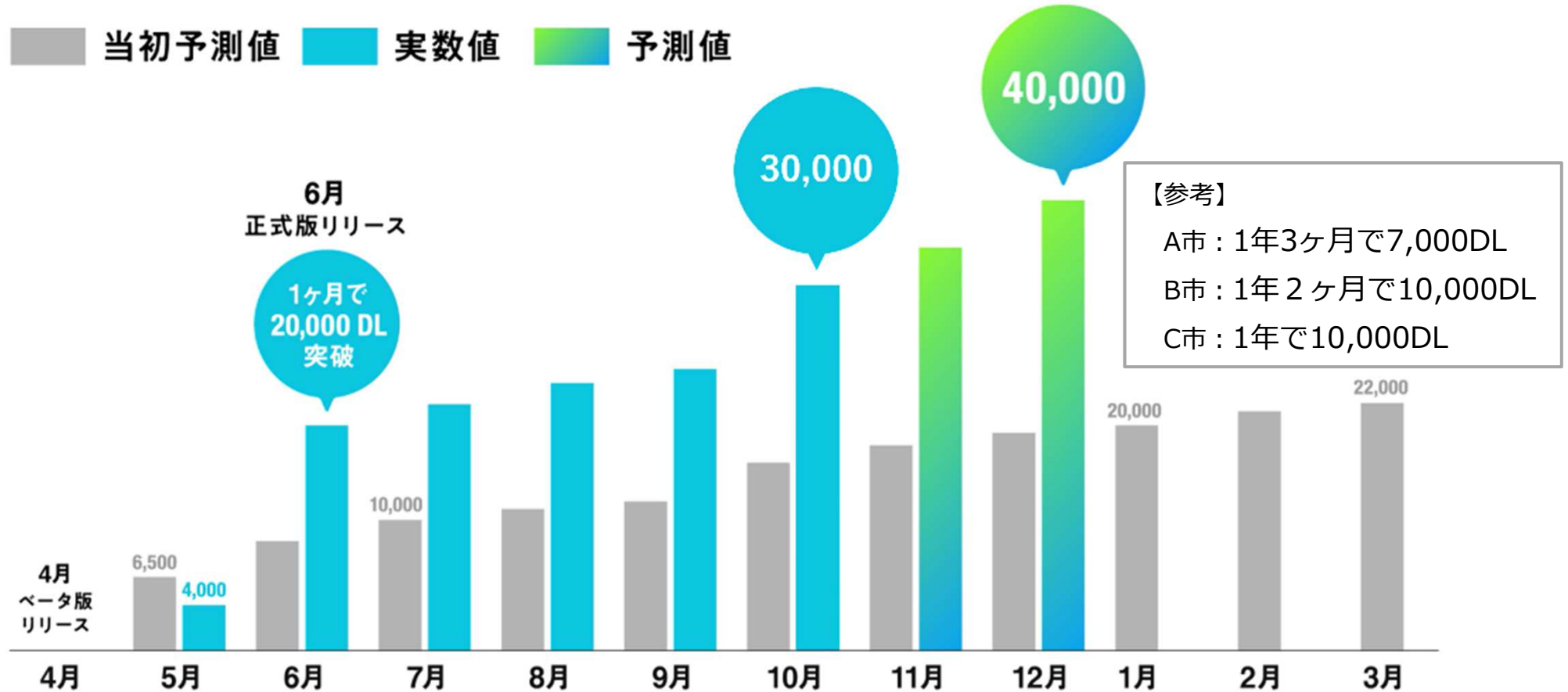
- ◇ バックヤードの集約化・効率化
- ◇ AI・BIツールによるフロントヤード処理状況の分析・見える化

データドリブンな行政運営

モデルプロジェクト
対象範囲
(令和5年度～)

市長の強力なリーダーシップのもと「市役所DX」を推進中！

利用者数がどんどん増加しています



Digi田 (デジでん) 甲子園 2023

地方公共団体、民間企業・団体などの皆さまがデジタルの力を活用して地域課題の解決や地方創生に取り組む事例を幅広く募集し、特に優れたものを内閣総理大臣賞として表彰する「Digi田 (デジでん) 甲子園 2023」を開催します。



デジタル田園都市国家構想
DIGIDEN

デジタル技術の活用により、地域の個性を活かしながら、地方の社会課題の解決や魅力向上を実現し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す取り組みです。

『佐賀市公式スーパーアプリ』 エントリー中！



スケジュール

インターネット投票	2024年 1月～2月
表彰式	2024年 3月

令和5年6月
爆誕。

使える！つながる！
佐賀市民証
[佐賀市ID]

SAGA
CITY



全員が主役！みんなで創る
佐賀市公式
スーパーアプリ

今後のリリース・機能改善の予定

 学校の出欠連絡ミニアプリ

 市県民税等口座振替手続き

 地域版・企業版ミニアプリ

 既存ミニアプリとの連携

 佐賀市民証（ID）の利活用



佐賀市民証 (デジタル市民証)



IDの活用

本人確認：
マイナンバーカード



活用事例：
イベント・避難所の
チェックイン



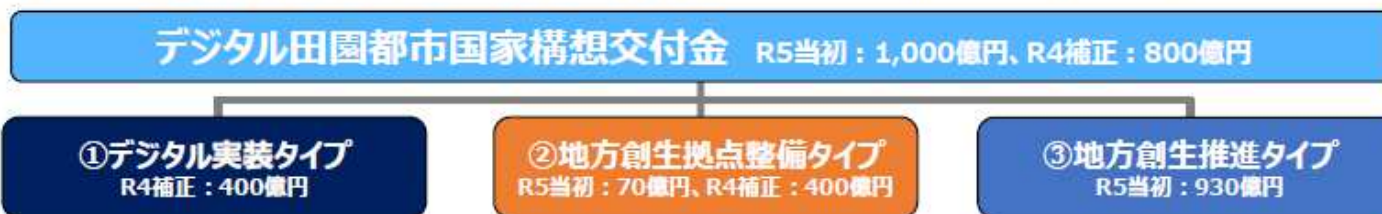
ポップアップ：
IDを活用し個別配信



デジタル田園都市国家構想交付金のR6概算要求



R6概算要求額：1,200億円（R5当初：1,000億円／R4補正：800億円）



➤ デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上の実現に向けて、デジタル実装に必要な経費を支援。

➤ デジタルの活用などによる観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する取組や拠点施設の整備などを支援。

- ・ 自立性、官民協働、地域間連携、政策間連携、デジタル社会の形成への寄与等の要素を有する取組や施設整備等（最長5年間）
- ・ 東京圏からのUIターン促進及び地方の担い手不足対策
- ・ 省庁の所管を超える2種類以上の施設（道・汚水処理施設・港）の一体的な整備



デジタル実装タイプ1/2/3等：制度概要

今後本申請開始にあたり
変更可能性あり

目的	デジタルを活用した意欲ある地域による自主的な取組を応援し、「デジタル田園都市国家構想」を推進するため、デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上の実現に向けた地方公共団体の取組を交付金により支援												
概要	<p>デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上に向けて、以下の事業の立ち上げに必要な経費を単年度に限り支援</p> <p>【TYPE1】他の地域等で既に確立されている優良なモデル・サービスを活用して迅速に横展開する取組</p> <p>【TYPE2】オープンなデータ連携基盤を活用し、複数のサービス実装を伴う、モデルケースとなり得る取組</p> <p>【TYPE3】（TYPE2の要件を満たす）デジタル社会変革による地域の暮らしの維持につながり、かつ総合評価が優れている取組</p>												
共通要件	<p>①デジタルを活用して地域の課題解決や魅力向上に取り組む</p> <p>②コンソーシアムを形成する等、地域内外の関係者と連携し、事業を実効的・継続的に推進するための体制を確立</p>												
詳細	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><TYPE別の内容> ※2/3は1団体1申請とすること</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; color: red;">New!</td> <td style="text-align: center; color: red;">New!</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <p>デジタル社会変革型 【TYPE3】</p> </td> <td style="text-align: center;"> <p>・新規性の高いマイナンバーカードの用途開拓 ・AIを高度活用した準公共サービスの創出</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <p>データ連携基盤活用型 【TYPE2】</p> </td> <td style="text-align: center;"> <p>データ連携基盤を活用した、複数のサービス実装を伴う取組</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <p>優良モデル導入支援型 【TYPE1】</p> </td> <td style="text-align: center;"> <p>優良モデル・サービスを活用した実装の取組</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <p>デジタル実装計画策定支援事業</p> </td> <td style="text-align: center;"> <p>デジタル実装に取り組もうとする地域の計画づくりを支援</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <p>委託事業</p> </td> <td></td> </tr> </table> <p>※申請上限数（上記TYPEの合算値）：都道府県9事業 市町村5事業 ※「マイナンバーカード横展開事例創出型」についてはR4補正の時限措置のため類型として消滅</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><対象事業（一例）></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>【TYPE3】 マイナンバーカードで各種市庁サービスを利用（図書館利用や遊園地の受付等）</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>【TYPE2】 複数分野データ連携の促進による共助型スマートシティ（会津若松市）</p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>【TYPE1】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div>書かない窓口</div> <div>地域アプリ</div> <div>医療MaaS</div> <div>ドローン配送</div> <div>遠隔医療</div> </div> </div> <p><その他の新規要素></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイナンバーカードの利活用促進、スタートアップの活用促進など、国の重要施策を推進する観点からの一定の優遇措置 ・KPI（デジタル実装1,000団体）達成に向けたボトムアップ支援 </div> </div>	New!	New!	<p>デジタル社会変革型 【TYPE3】</p>	<p>・新規性の高いマイナンバーカードの用途開拓 ・AIを高度活用した準公共サービスの創出</p>	<p>データ連携基盤活用型 【TYPE2】</p>	<p>データ連携基盤を活用した、複数のサービス実装を伴う取組</p>	<p>優良モデル導入支援型 【TYPE1】</p>	<p>優良モデル・サービスを活用した実装の取組</p>	<p>デジタル実装計画策定支援事業</p>	<p>デジタル実装に取り組もうとする地域の計画づくりを支援</p>	<p>委託事業</p>	
New!	New!												
<p>デジタル社会変革型 【TYPE3】</p>	<p>・新規性の高いマイナンバーカードの用途開拓 ・AIを高度活用した準公共サービスの創出</p>												
<p>データ連携基盤活用型 【TYPE2】</p>	<p>データ連携基盤を活用した、複数のサービス実装を伴う取組</p>												
<p>優良モデル導入支援型 【TYPE1】</p>	<p>優良モデル・サービスを活用した実装の取組</p>												
<p>デジタル実装計画策定支援事業</p>	<p>デジタル実装に取り組もうとする地域の計画づくりを支援</p>												
<p>委託事業</p>													

基幹系情報システムの標準化

1 これまでの進捗

現行業務と標準仕様書との差異分析（令和4年度～）

標準化対象システムごとに差異分析（F i t & G a p）を実施中。標準準拠システムへの移行に伴い必要となる業務の変更内容を洗い出す

システムベンダーへの情報提供依頼（R F I）（令和5年2月）

ベンダーの標準化対応状況や実装オプション機能（実装するかベンダーに委ねられている機能）の有無等について情報提供を依頼
これとは別に随時、各ベンダーとの情報交換を個別に実施

基幹系情報システム標準化対応方針の策定（令和5年6月）

8つの標準化対象システムを確実かつ効率的に標準化するため、本市における基幹系情報システムの標準化に向けた統一的な方針を策定
基幹系情報システム標準化ワーキンググループ所属の各部署へ周知済

- ・標準化対象システムごとに標準化を実施する
- ・国が定める方針、手順等に準じて標準化を実施する
- ・ガバメントクラウドを利用して、カスタマイズを行わずに標準化を実施する

システム調達に向けた予算要求（令和5年7月～）

対応方針に基づき、標準化対象システムごとに移行スケジュールを策定し、順次予算要求を開始

2 現状の課題

■ 肥大化する対応経費

過去のシステム更新時と比較して、イニシャル・ランニングコストとも大幅に増大

- ・システムのモダン化や標準仕様書の改版に伴い、ベンダーが対応しなくてはならない作業量が増大
- ・約1,700団体の移行が令和7年度に集中し、ベンダーのSEリソースが逼迫
- ・標準準拠システムが構築されるガバメントクラウドに接続するためのネットワーク費用が追加で発生

⇒各システムのベンダーに移行作業内容、移行スケジュール、移行費用等の提示を求めて内容を精査する

■ 流動化する国等の対応

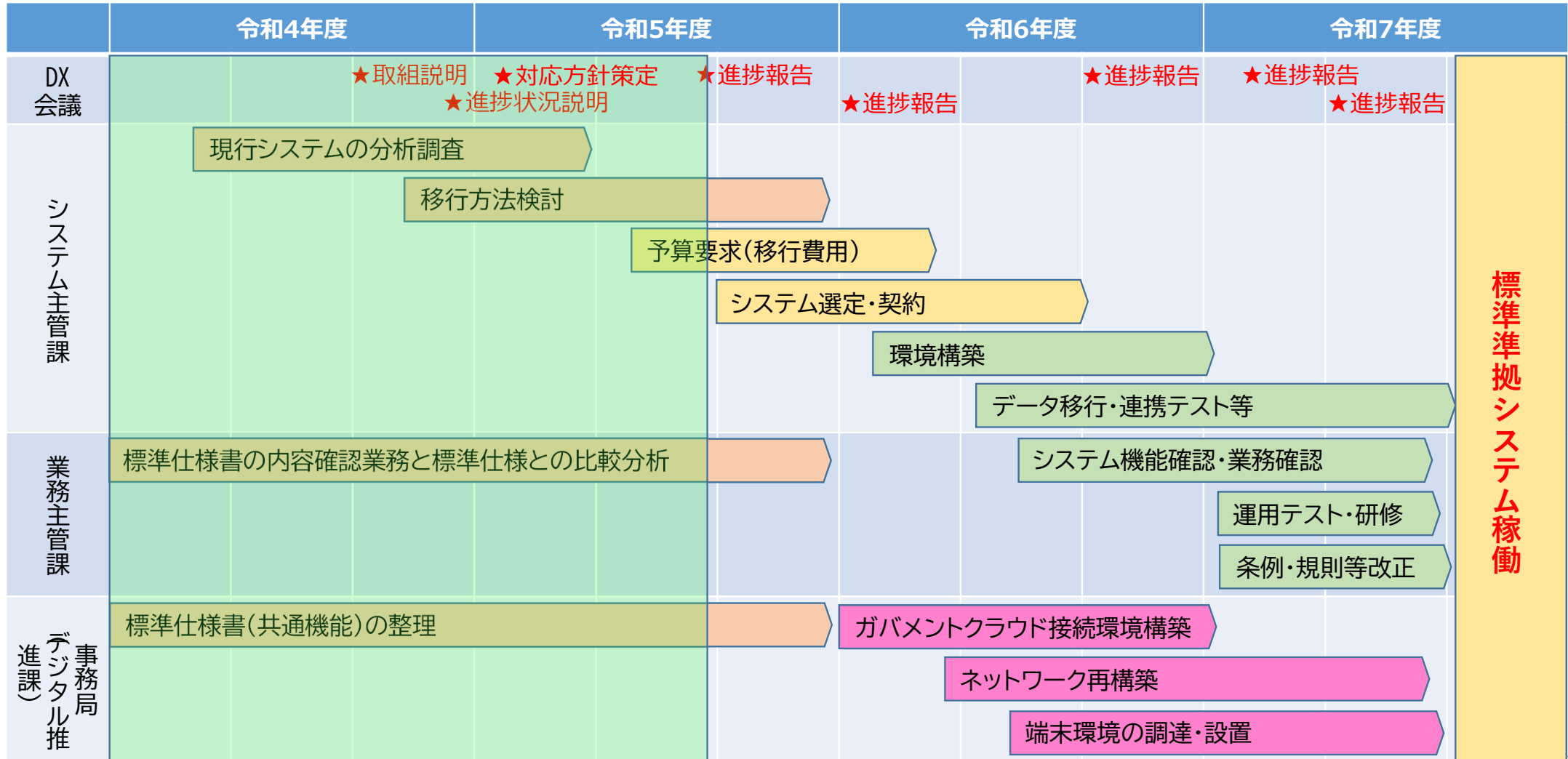
標準化対応期限まで残すところ約2年半となり計画的な移行準備が求められる中、前提となる国等の対応が変化

- ・標準化対応を行うベンダーが存在しない等の要件を満たす『移行困難』システムについて、総務省及びデジタル庁の指定に基づき対応期限の順延認める措置が新設
- ・補助金の増額に向けた検討のため、令和5年8月に改めて移行経費の調査が実施（算定方法等の詳細について、現時点では未定）
- ・ガバメントクラウドに接続するためのネットワーク費用の抑制のため、地方公共団体情報システム機構（J-LIS）がLGWAN経由でのガバメントクラウド接続に向けた検討を本格化

⇒国等の動向を注視しながら、令和7年度までの標準準拠システム移行に向けて計画的に準備を進める

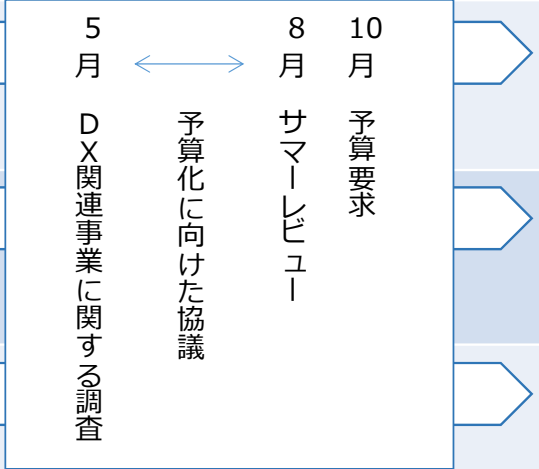
基幹系情報システムの標準化

3 標準化の全体スケジュール



今後のスケジュール

年度	令和4年度	令和5年度		
1 スマートシティ構想 ・推進	スマートシティ実現の『スタートアップ期』 R4.7.26 ☆「佐賀市スマートシティ」宣言	スマートシティ推進の『本格実施』 デジタル田園都市国家構想交付金デジタル実装タイプ：TYPE 2 の活用 ・佐賀市スマートシティ推進協議会設置（11月～）		
2 取組の3本柱	①デジタルサービス創出 各種ワーキンググループ （デジタルサービスの検討）	デジタルサービス実装・創出 ・各部横断的な取組		
②データ連携基盤構築	都市OS実装準備	データ整理・都市OS実装（9月） ・データ利活用・EBPM・オープンデータ化		
③DX人材育成	各課DX推進員へのDX研修	DX人材育成の強化 ・地域情報化アドバイザー等による研修会の実施		
3 佐賀市DX推進本部会議	第1回 7月 第2回 10月 第3回 3月 ・重点取り組み等まとめ ・DX推進進捗報告 ・R5年度の取り組み（案）	☆ 第1回 5月 DX推進の取り組み	☆ 第2回 11月 DX推進の取り組み （進捗報告）	☆ 第3回 3月 R6年度の取り組み 方針（案）



- ◆ R6年度予算要求⇒デジタル田園都市国家構想交付金への対応
- ◆ 自治体フロントヤード改革モデルプロジェクトへの対応
- ◆ 佐賀市公式スーパーアプリの各分野での活用
 - ・ダウンロード数の増加
 - ・Digi田甲子園2023（エントリー済）の庁内全体での周知
- ◆ DXを課題解決のための一つのツールとしてフル活用（DXそのものが目的ではない）
- ◆ 基幹系情報システムの標準化⇒国やベンダーの動向を踏まえた計画的な対応